

他人に厳しく・自分に甘く？

— 仮想的有能感と自己志向的完全主義との関連 —

生駒 忍

(筑波大学 人間総合科学研究科)

key words : 仮想的有能感 自己志向的完全主義 他者軽視

速水・木野・高木(2004, 2005)は、現代人における感情の生起や有能感についての考察から、「仮想的有能感」ないしは“他者軽視(他者批判・他者否定を含む)に基づく仮想的有能感”(速水他, 2005)という構成概念を提唱した。これは、“自己の直接的なポジティブ経験に関係なく、他者の能力を批判的に評価、軽視する傾向に付随して習慣的に生じる有能さの感覚”(速水他, 2004)と定義される。これまでに、各種の欲求や動機づけはもちろん、怒り感情や孤独感、いじめ経験などとも関連することが示されてきている。

仮想的有能感は、自己奉仕バイアスやポジティブ幻想のような、自己評価を守るために事象を都合のよい方向へゆがめて認知する社会心理学的なはたらきの一種としても理解できる。その点では、他者を厳しい基準に基づき批判しこき下ろす仮想的有能感は、自身についてはそうせずにあるのままを肯定することと表裏一体で二重基準を構成すると予測される。速水(2006)によれば、“仮想的有能感にも「甘い自己評価」の側面が含まれていると見ることができる”“自分に対する甘さが幾分含まれている”(p. 157)という。すると、自己志向的完全主義とは相容れないと考えられるだろう。しかし一方で、物事全般を常に厳しくとらえるか甘い態度にとどめるかというレベルに個人差があり、そのうち一般他者の評価に向けられて現れる部分が仮想的有能感として概念化されている可能性もまた想定できる。この視点からは、むしろ完全主義と併存しやすいと予測される。そこで本研究では、仮想的有能感と完全主義との関連について検討し、上記の予測のどちらがより妥当であるかを明らかにする。

方法

調査対象者：大学生 45 名（男性 22 名・女性 23 名；平均年齢 20.6 歳）。

質問紙：以下の 2 尺度を、無記名で実施した。いずれも 5 件法とした。

自己志向的完全主義：新完全主義尺度(桜井・大谷, 1997)。完全でありたい欲求(DP)、自分に高い目標を課する傾向(PS)、ミス(失敗)を過度に気にする傾向(CM)、自分の行動に漠然とした疑いを持つ傾向(D)の 4 つの下位尺度に 5 項目ずつ、計 20 項目。

仮想的有能感：仮想的有能感尺度第二版(速水, 2006)。他者軽視傾向を尋ねる 11 項目からなる。

結果

仮想的有能感尺度の得点について、クロンバックの α 係数を求めたところ .881 となった。よって、十分な内的一貫性があるといえる。

自己志向的完全主義の下位因子ごとの得点および合計得点と仮想的有能感得点との積率相関係数を算出したところ、Table 1 のようになった。無相関検定の結果、DP・PS・CM および合計についてはいずれも 1%水準で有意であり、D は有意傾向($p < .07$)であった。よって、ほぼ一貫して正の相関が認められたといえる。また、下位尺度について得られた相関係数同士の対それぞれについて、同一標本における相関係数の差の検定を行ったが、PS-D 間に有意傾向が見られた($t(42) = 1.71, p < .10$)のみであり、検定の多重性を考えれば差はほとんど認められないといえる。よって、一定の相等性があると考えられる。

考察

本研究では、仮想的有能感と自己志向的完全主義との関連について、質問紙調査による検討を行った。分析の結果、完全主義は仮想的有能感と正の相関を示すことが明らかにされた。これは、仮想的有能感が高く何かにつけて他者を批判し見下す者ほど、自分自身に対しても高い要求水準を持ちそれを満たさねばならないという信念が強いことを意味する。よって、速水(2006)の帯にもある“自分に甘く、他人に厳しい”というような傾向は、現代青年にみられる特徴ではあるとしても、少なくとも仮想的有能感に対応するものではないと考えられる。

本研究の知見からは、仮想的有能感尺度には自他共に厳しくとらえる一般的な認知傾向が、少なくともある程度は反映されている可能性がうかがえる。今度この尺度を用いて研究を行う場合には、完全主義についても同時に測定してその影響を考慮した分析や解釈を行うことも選択肢の一つになろう。そうすることで、他者軽視に特化したより純粋な成分を取り出して解明を進めることが可能になる。

Table 1. 仮想的有能感得点と完全主義得点との相関係数

DP	PS	CM	D	合計
.408**	.516**	.391**	.282+	.491**

** $p < .01$, + $p < .07$

引用文献

- 速水敏彦(2006). 他人を見下す若者たち 講談社
 速水敏彦・木野和代・高木邦子(2004). 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 心理発達科学, 51,1-8.
 速水敏彦・木野和代・高木邦子(2005). 感情心理学研究, 12, 43-55.
 桜井茂男・大谷佳子(1997). 心理学研究, 68, 179-186.

(IKOMA Shinobu)